第９回臨床免疫検討会（CIC）「犬や猫の自己免疫疾患って何だ」

今回の CIC は、「自己免疫疾患」ということで、学会では避けて通れない分野、そしてリクエストの多い部分でもありました。

免疫介在性疾患と自己免疫疾患の考え方という初歩の部分から、対する獣医療の過去・現在・未来と丁寧にまとめられた湯木先生の教育講演によって、今の我々の範疇全てを語っていただきましたが、CIC はいつもの通り問題提議の場として、そして１つでも何か得るものを残そうと、特に今回は会場も含めた多くの先生方の経験やお考えを情報として共有する場、そのような役割を果たせたと思っております。

それぞれの立場から、考え方や診断のアプローチ、治療の選択などの意見交換の中で、特殊な検査や治療に目を奪われがちな中でこそ、問診や身体検査という基本的な医療技術とそこから派生する一般的な諸検査による MDB の作成、生検の実施、これらによる鑑別診断がやはり重要であることを再認識するに至りました。

経験に基づいた診療に終始しやすいこの分野で、いかに EBM という概念を実践できるか、どこに科学的根拠を見出し、現場での正しい診断や治療、予後の判定に生かしていくのか、先生方の苦労や苦悩を知るとともに、そこに少しでも見出すものが得られたのではないでしょうか。